



鳴海ヶ丘新聞



令和7年度
2026. 3



一年の集大成「劇あそび発表会」

二学期、担任の手作りえ絵はなしを使った読み聞かせが始まります。どの子も手作り絵はなしのお話を輝かせて引き込まれます。学年が上がるにつれ、言葉を獲得し、様々な経験を積むことで、お話の理解も深まります。

年少組では、先生やお友だちと身振りや表現してお話を深めていきます。本番は大きな舞台に立っていることに、成長を感じられます。

年中組では、年長組への進級を前に、お友だちと一緒に頑張ることの喜びを味わい、劇を作り上げていく過程で、本番をイメージすることも、できるようにしていきます。

そして年長組になると好奇心も増し、知らない言葉や昔の様子に興味を持ち、自ら調べたり質問する姿もあります。本番が近づくと、感情を込めたり、もともとと表現を深めたいと子どもたちの話し合いも活発に行われます。

教師は、ナレーションとピアノで色付けます。保護者の方は客席から観る我が子の成長に感動し、教師は、舞台袖から一年間一緒に過ごしてきた子どもたちの成長に、熱いものが込み上げてきます。「劇あそび発表会」を終えた子どもたちの姿は、凛々しく頼もしさを感じます。

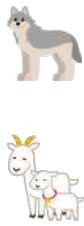
保護者の皆様には、本園の行事に対してのご理解、ご協力また、客席での雰囲気づくりやあたたかい拍手。心より感謝申し上げます。

緑組（満三歳児クラス） 劇あそび

レディネス（二歳児クラス） 劇あそび

緑組は、三歳のお誕生日を迎えた翌月から入園するクラスです。毎月新しいお友だちが増え、クラスは賑やかになります。四月の進級の前に、幼稚園のホールで劇あそび発表会「オオカミと七ひきのこやぎ」を行いました。自分の役や順番をしっかり覚えて、たくさんのお客さんの前で堂々と発表しました。

令和三年度より名古屋市中から委託を受けて始まった「二歳児一時預かり事業「レディネス」、毎年通う未入園児の人数も増え、1・2歳児の子どもたちと楽しく過ごしています。四月から年少組に入園するお友だちと、最後の行事、劇あそび「てぶくろ」をお部屋で発表しました。毎日の読み聞かせを楽しみにしている子どもたちは、繰り返し教師が読む「てぶくろ」のお話が大好きになりました。発表本番では、自然に身体が動いたり、お話にでてる動物になりきっていました。四月からまた新しいお友だちを迎え賑やかになりますね。



こども誰でも通園制度

十月よりスタートした「こども誰でも通園制度「オ・ア・シ・ス」は、六ヶ月が経ち、多くの地域のお子さまに利用していただいています。

利用者の皆さまからは、「家庭ではできない体験や先生方との関わりの中で、子どもの成長を感じました。」「一緒に成長を喜んでくれる先生との出会いで孤独感がなくなりました。」「など、嬉しい感想が届いています。また、同年代のお子さまを持つ保護者のつながりもできるように、三月には、見る・作る・体験する「誰通春まつり」を企画しました。次回は、初夏に行います。こども誰でも通園制度は母子分離となるため、親子で楽しめるイベントを今後も企画していきます。

なるなる畑通信



十一月、大根の種まきをしました。小さな小さな種、この種が大根になるの？種を手のひらにのせ、不思議そうに眺める子どもたち。大根の成長を観察していると、気がつくくと3月になっていました。あまり雨が降らなかつた冬・・・なかなか大きくならない大根を心配して、いつ大根探る？と、聞かれることもありまして。種から育てた大根は、子どもたちにとっても愛着があり、収穫した時の喜びは、表情から伝わりました。年長組の園児は、なるなる畑で最後の収穫でした。力作体験が子どもたちの心にいつまでも残りますように、そして、自然の恵みへの感謝も大切にしてください。

青組さん 修了おめでとう

三月十六日、園庭から見上げる空は、みなさんの修了を祝福しているかの晴天。この園庭でたくさん遊びましたね。最後に全員で歌う姿は、たくさんさんの経験を胸に小学校へと旅立つ頼もしさ、力強さを感じられました。鳴海ヶ丘幼稚園はみなさんの「心のふるさと」です。いつまでも応援しています。修了おめでとう。



小さい勇気をこそ

人生の大嵐がやってきたときそれがへっちゃらで乗りこえられるような、大きい勇気もほしいにほしいが、わたしは、小さい勇気をこそ、ほしい

（中略）

もう五分くらい寝ていたっていいじゃないか、けさは寒いんだよとあたたかい寝床の中にひそみこんで、わたしにささやきかける小さい悪魔を、すぐやっつけてしまえるくらいの小さい勇気をこそほしい

紙くずがおちているのを見つけたときは、気がつかなかつたというふりをして

ささやき行っちゃえよ

かぜひきの鼻紙かもしれないよ、不潔じゃないかと呼びかける

小さい悪魔をすぐやっつけてしまえるくらいの、小さい勇気をこそわたしは、ほしい

どんな苦難ものもりきれる、大きい勇気もほしいにはほしいが、毎日、小出しにして使える、小さい勇気でいいから、それが、わたしは、たくさんほしい（後略）

東井 義雄

「いのちの教育」の探求に尽くした日本の教育者、東井義雄先生の詩です。

幼児期こそ、小さな勇気を育てること、大きな勇気、未来への挑戦ができる子どもになります。今年、子どもたちは多くの行事を乗り越え、心の力が育ちました。来年度は、より勇気を出して心の力を高めましょう。

園長 岡田 勝彦